

### 3. 入院高齢患者への抑肝散投与の検討

県立広島病院 泌尿器科<sup>1)</sup>

広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院 泌尿器科<sup>2)</sup>

○梶原 充<sup>1)2)</sup>、森山 浩之<sup>2)</sup>

**【目的】** 抑肝散は神経症、不眠症などに保険適応される漢方薬であるが、近年、入院中のせん妄や認知症による心理行動異常に対する報告が散見される。今回、高齢者の泌尿器科入院中におけるせん妄に対するツムラ抑肝散の予防効果についての安全性と有用性を、入院前に認知症またはせん妄既往歴を認める群（認知症/せん妄既往歴あり群）と認めない群（なし群）の2群において前向きに検討した。

**【対象と方法】** 対象は、当院泌尿器科に入院し、入院前認知症の有無に関わらずせん妄の出現が疑われた高齢患者13例。入院直後からツムラ抑肝散7.5gを1日3回内服投与し、せん妄の発生率を検討した。有効性評価項目は阿部式BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) スコアとDRS (Delirium Rating Scale) の睡眠・覚醒周期の障害とした。除外基準は、本剤内服不可能例、有熱性尿路感染症例、本剤以外の漢方製剤やオピオイド内服例とし、抗精神病薬/睡眠薬内服例は処方を変更しないこととした。

**【結果】** 認知症/せん妄既往歴あり群8例、なし群5例で、各群の年齢中央値は83、88歳。有害事象は両群において認めなかった。入院中のせん妄発現はそれぞれ28%、0%に認めた。入院前と退院前の阿部式BPSDは、両群において有意差を認めなかったが、DRS睡眠・覚醒周期障害は認知症/せん妄既往歴あり群においては治療後有意な低下を認めた。

**【結語】** 高齢者の泌尿器科入院中におけるせん妄に対するツムラ抑肝散の予防効果について安全性、有用性について検討した。症例数が少なく、せん妄自体の抑制効果は不明であったが、睡眠覚醒リズム障害を改善させる可能性が期待される。